

I はじめに

レッドデータブックは、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップし、その現状を解説したものです。平成3年に、我が国で初めて「日本の絶滅のおそれのある野生生物」が発行されて以降、環境省では定期的にレッドリストの見直しが行われており、平成24年8月から25年2月にかけて第4次レッドリストの公表、「レッドデータブック2014」が発行されたところです。

埼玉県では、平成8年（1996年）3月に、はじめて県版レッドデータブックとして動物編を発刊しました。人間活動や都市化の進展に伴い、野生生物の生息環境は常に変化しており、その絶滅の危険性については、定期的に把握し評価を見直すことが必要です。そのため、県ではこれまで平成14年、20年の2回にわたって見直しを行ってきました。さらに、環境省の第4次レッドリストの公表を受け、平成25年10月から概ね3年間をかけ「埼玉県レッドデータブック2008動物編」の見直しに係る調査を実施しました。今回、その調査結果を踏まえ、埼玉県レッドデータブック動物編改訂調査検討委員会、同編集委員会において、各委員の専門的な見地から検討いただき、ここに第4版の発行を迎えることができました。

本県のレッドデータブックは、これまで全県評価に加えて地帯区分別の評価を行っていることを大きな特徴としていました。今回の第4版では、最新の研究報告や知見に基づき分類群によって地帯別にカテゴリー区分できるものとできないものを整理し、一部の分類群については地帯区分別評価を廃止しました。さらに、外来種や偶産種など埼玉県レッドリストには掲載すべきでない種はランク外とし、その理由についても説明を加えることとしました。

一方で、掲載種数は昆虫類のコウチュウ目が増えたことが大きく影響し、全体として前版の787種から842種に増加しています。また、県内の希少野生動物の生息環境が決して安定している状況とは言えず、多くの種で絶滅の危険性が増大していることが明らかとなりました。

こうした調査結果や評価が得られるのは、日ごろより県内で野生生物の動向を注視している多くの専門家や団体等の活動の賜物であり、本書の作成に御尽力、御協力いただいた多くの関係各位に厚く感謝申し上げます。

埼玉県は、首都圏にありながら、今でも多様で豊かな自然環境を残しています。本書に掲載された絶滅のおそれのある種を将来にわたって存続させ、生物多様性が確保されていることは、私たち人間の生存基盤である自然生態系を健全に保持するためには必要不可欠な条件です。

本書を通じて、県内に生息する野生生物やその生息・生育環境への理解を深めていただくとともに、今後、県民の皆様をはじめ行政、事業者等、様々な主体による生物多様性保全の取組に、本書が広く活用されることを祈念します。